

平成30年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	幼児の「社会情動的スキル」を育む“ごっこ遊び”の題材開発
報告者氏名・所属・職名	附属函館幼稚園 副園長 藤谷 毅
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	附属函館幼稚園園長 教職大学院教授 橋本 忠和 附属函館幼稚園 教諭 小林恵理子 伊藤公美子 附属函館幼稚園教諭（期限付） 長崎奈苗 附属函館幼稚園 非常勤（ICT） 熊谷光洋
研究内容及び成果の概要	
<p>研究内容</p> <p>① 本研究の内容</p> <p>A「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具現化につながる幼児の「社会情動的スキルと「ごっこ遊び」との関係性を整理し、小学校への接続も視野にいれたカリキュラムを構築する。</p> <p>B「遊びプロセス（創出の遊び・没頭する遊び・振り返りの遊び）」で軸となる地域環境・人材と連携した「ごっこ遊び」の題材開発と分類を行い、実際の保育でその有用性を検証する。</p> <p>C「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに3歳から5歳の各発達段階に応じたパフォーマンス評価の規準と手法を整備・検証する。</p> <p>D日々の保育に関わる教員、そして、その場で実践的に学ぶ学生の教員機能強化に繋がる「ごっこ遊び」の題材開発力や遊びのプロセスを構想・展開する指導力を向上させる。</p> <p>E「社会情動的スキルを培う「ごっこ遊び」の題材事例」を構築し、附属幼稚園の研究会でその成果を授業として公開したり、ホームページや紀要の研究活動のページ内に掲載したり、他園での講師として講演・助言時に発信することができる。</p> <p>② 研究成果</p> <p>A「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識ながら小学校との連携も考慮して、本幼稚園が平成28年度まで研究してきた幼少接続カリキュラムをベースに、新幼稚園教育要領で示された学びの3つの柱「知識及び技能、思考・判断・表現力、学びに向かう力・人間性」を区分に「ごっこ遊びを軸にした幼児期の「見方・考え方」の育成のためのカリキュラム表（幼稚園）」を作成し、幼稚園のホームページに掲載する。</p> <p>B「遊びプロセス（創出の遊び・没頭する遊び・振り返りの遊び）」で軸となる大学教員（協力者）及び平成31年度開催の全道幼稚園・こども園教育研究大会の授業開催園（知内幼稚園・きたひやまこども園等）及び地域人材と連携した「ごっこ遊び」の事例開発を行い、その成果を7月19日に本園にて研究大会を行い、その成果と反省を平成30年度北海道附属函館幼稚園研究紀要としてまとめるとともに、平成31年の7月27日にはさらに内容改善を図った取り組みの成果を全道大会公開保育として100名余りの全道保育者に公開する。</p> <p>C本研究のねらいに基づき、幼児たちのごっこ遊びを通じた遊びの変容を見取り記録できるパフォーマンス評価の視点を組み込んだ指導案を開発・充実させ、その成果を研究紀要に「こども変容シート」として掲載している。</p> <p>D・E 保育者の小林が千葉県の「千葉大学教育学部附属幼稚園」と東京の「お茶の水大学教育学部附属幼稚園」「文京区立お茶の水女子大学こども園」に、伊藤が山形県の「山形大学教育学部附属幼稚園」と宮城県の「宮城教育大学附属幼稚園」へ研究視察に行き、先進校の取り組みの様子を視察記録とまとめ、園内研修で報告するとともに、平成31年1月11日に橋本と小林が北海道国立幼稚園・こども園研究部会にて、幼稚園のカリキュラでその視察の内容を報告した。また、学生に関しては、預かり保育等において「ごっこ遊び」を題材にした題材開発の場を提供し、その成果を卒業論文としてまとめ、大学へ提出した。</p>	<p>図1 本研究の展開（流れ）</p>

成果の公表の状況	
【学術論文】 橋本忠和, 「幼児の社会情動的スキルを育む「ごっこ遊び」の造形表現活動についての一考察 —3歳児の「魚釣りに行こう」での活動分析を通して—」, 大学美術教育学会誌「美術教育学研究」51号, 2019年3月分	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
<ul style="list-style-type: none"> ・「ごっこ遊びを軸にした幼児期の「見方・考え方」の育成のためのカリキュラム表（幼稚園）」 ・平成30年度北海道附属函館幼稚園研究紀要「幼児の「試行錯誤する力」を培う遊びのプロセスの創造 —ごっこ遊びを通じた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の育成を軸に— 	
配布又はダウンロード可能な資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「平成30年度北海道教育大学附属函館幼稚園教育研究紀要」, 北海道教育大学附属函館幼稚園, 2017年3月 ・国立大学法人, 北海道教育大学附属函館幼稚園HP http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_kind/
問合わせ先	代表者：北海道教育大学附属函館幼稚園 副園長 藤谷 毅 電 話：0138-46-2237 FAX ：0138-47-8731 mail ：fujiya.takeshi@h.hokkyodai.ac.jp